
福井県スポーツ協会 基本計画

令和3年3月
公益財団法人福井県スポーツ協会

目 次

第1章	「福井県スポーツ協会基本計画」の作成にあたって・・・・・・・・・・	1
	1 計画改定作成の趣旨	
	2 計画の期間	
第2章	基本施策Ⅰ トップアスリートの養成・・・・・・・・・・	2
	1 選手を育成強化する体制づくり	
	2 指導者の育成と確保	
	3 競技力向上のための環境づくり	
第3章	基本施策Ⅱ 1県民1スポーツ・・・・・・・・・・	6
	1 「する」「みる」「ささえる」スポーツに親しむ環境づくり	
	2 ライフステージに応じたスポーツ活動の推進	
	3 スポーツ指導者の育成	
	4 スポーツ交流の推進	
第4章	基本施策Ⅲ 健全な組織運営の継続・・・・・・・・・・	10
	1 組織運営の強化のための人材の登用・育成	
	2 財務の健全性の確保	
	3 加盟団体の育成及び連携	
参考	福井県スポーツ推進計画の基本施策・・・・・・・・・・	12

第 1 章 福井県スポーツ協会基本計画の作成にあたって

1 計画作成の趣旨

本会では、本会定款および「福井県スポーツ推進計画」を踏まえ、「県民総スポーツ」ならびに「競技力向上」を目指して、県と連携し様々な事業を展開してきました。

平成 30 年の「福井しあわせ元気国体（第 73 回国民体育大会）」では、男女総合優勝（天皇杯）を獲得するとともに、初の女子総合優勝（皇后杯）の獲得を成し遂げることができました。

国においては、平成 29 年 3 月に文部科学省が平成 29 年度から 5 年間にわたるスポーツに関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るための指針として「第 2 期スポーツ基本計画」を発表し、「スポーツ参画人口」の拡大や「一億総スポーツ社会」の実現に取り組むこととしています。

また、新型コロナウイルスの感染拡大により 1 年延期された東京 2020 オリンピック・パラリンピックの開催も間近となっており、スポーツ立国に向けた動きが加速しています。

このような中、スポーツ庁では令和元年 6 月に、スポーツの普及・振興等の重要な担い手であるスポーツ団体を適切に運営していくための遵守すべき規範である「スポーツ団体ガバナンスコード」を公表しました。

本会としては、これら本県を取り巻く状況の変化や令和 2 年 3 月に改定された「福井県スポーツ推進計画」などを踏まえて、福井国体の成果・レガシーを活かし、県民にスポーツの価値を伝え、さらなるスポーツ振興やスポーツを通じた交流人口の拡大につなげるとともに、本県のスポーツ団体を統括する組織としての健全な運営を推進するため「福井県スポーツ協会基本計画」を作成するものです。

2 計画の期間

計画の期間は、令和 3 年度から令和 7 年度の 5 年間とします。

第2章 基本施策Ⅰ トップアスリートの養成

～福井国体のレガシーを活かした競技力の維持・向上～

施策目標

項 目	現状	目標	備考
国民体育大会 総合順位	10 位 (R 元)	10 位台を できるだけ維持	
競技スポーツの全国大会での 上位入賞数 (1～3 位) (正加盟団体競技の大会)	290 件 (H30)	100 件/年 を維持※ (R6)	(参考) 福井県スポーツ 推進計画
公認スポーツ指導者新規登録数	87 名 (H30)	100 名 (R6)	

※福井国体に向けたジュニア選手育成時期（H25～27）の平均89件を上回る件数

1 選手を育成強化する体制づくり

【考え方】

福井国体後の競技力を維持するため、有望ジュニア選手等の発掘・育成、成年選手のUIターンの促進を図るとともに、ジュニア時代からの「チームふくい」による実践練習や遠征・合宿などを通じて、継続的な強化を図ります。

【具体的な施策】

(1) 有望なジュニア選手の発掘・育成

子どもたちが、自分の才能や可能性を発見することで、夢に向かって挑戦する意欲を高め、トップアスリートを目指す選手を発掘・育成するために、ジュニア期にスポーツ能力測定会や競技体験会を実施します。

- ・ 競技人口の少ない競技を中心に、小中学生を対象に競技特性に沿った体験会を実施し、有望選手を発掘
- ・ トップアスリートを目指す子どもを対象とした育成プログラムの提供

(2) 国体や全国大会等に向けた少年選手の確保

国体の少年選手の強化拠点づくりや県内外の有望選手の確保のため、新たに創設した入試制度等を踏まえ、遠征・合宿等の強化事業の支援を行います。

- ・ 県外の有望選手の受入れを促進するため高校生選手の下宿費用を支援

(3) 成年の有力選手のU I ターンの促進

福井国体に向けて立ち上げた「スポジョブふくい」に協力することで、成年選手が県内で競技スポーツを行える環境を整備し、国体等で活躍が期待される有力選手のU I ターンを促進します。

- ・ 「スポジョブふくい」による有力選手の県内就職の支援
- ・ スポジョブ選手が県外の出身大学で本県の仕事と競技が両立できる環境をPRするスカウト活動を実施
- ・ 「スポジョブふくい」で県内に就職した選手の競技環境の整備
- ・ 福井ゆかりのトップアスリートなどがオリンピックにチャレンジする期間の企業の雇用を支援

(4) 有望選手の強化

国体等で活躍が期待される有望選手を「チームふくい」強化指定選手に認定し、計画的な選手強化を行うとともに、トップアスリートを継続的に輩出する競技を重点的に支援します。

- ・ 有望選手を強化指定選手として、計画的かつ継続的に強豪相手との実戦練習等による強化を推進
- ・ オリンピック候補選手の活動を支援
- ・ 中学生の時から県選抜チームを結成し、定期的な練習会と強化遠征・合宿を実施

(5) 「ふるさと選手」の確保

県外在住の本県ゆかりの有力選手に、「ふるさと選手」としての国体出場を促し、「チームふくい」の競技力を高めるとともに、ふるさと福井への誇りと愛着心を育み、将来のU I ターンを促進します。

- ・ 他県で活躍する本県ゆかりの有力選手の確保

(6) クラブ・企業チームの強化

成年選手がU I ターンし、県内で競技ができるよう、福井国体で強化が進んだクラブ・企業チームが地域の企業の協力を得て、上位大会参戦や選手確保など、自立ができるように支援します。

- ・ 自立を目指す福井国体で強化が進んだクラブチームを支援
- ・ クラブ・企業チームの選手を雇用する企業を支援

(7) 国体成年選手による少年選手の指導の推進

選手が引退後、指導者として次の選手を育てていくという好循環を形成していくため、少年・成年選手合同の「チームふくい」合宿や、福井国体で活躍した選手が少年選手を直接指導できる環境の整備に協力します。

- ・ 県職員・教職員として採用した選手による部活動指導

（８）「新しいお家芸競技」（地域に根差したスポーツ）の育成

福井国体の成果を今後に引き継ぎ、国体で継続的に上位入賞を目指すため、発掘・育成・強化活動などを通じて、体操、ボート、ホッケーに続く地域に根差した新たなお家芸競技を育成します。

- ・ 福井国体に向けてつくり上げた強化体制（選手育成・施設・企業の協力等）を土台に、お家芸競技の育成を目指す市町における、ジュニア発掘・育成、全国大会誘致・開催等を支援

２ 指導者の育成と確保

【考え方】

福井国体で築いた中央競技団体等との人脈を活かし、スポーツ推進の中核となる指導者の資質向上と養成・確保を図ります。

【具体的な施策】

（１）公認スポーツ指導者資格取得の促進

競技力向上に向けて優秀な指導者を育成するため、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者の資格取得講習会を開催します。

- ・ 高い専門知識と技術を備えた指導者の養成のため、指導者資格取得講習会を開催

（２）国内トップクラスの指導者の配置

選手の競技力向上および競技団体の組織強化を図るため、中央競技団体等から優秀な指導者を定期的に招き、選手強化の実戦指導や講習会等を実施します。

- ・ スーパーアドバイザーによる「チームふくい」の指導

（３）指導者の確保と資質向上

指導者の確保と資質向上のため、各競技団体の指導の中心となる指導者を集めた研修会や指導資格者を集めた体験発表会を開催します。

- ・ スーパーアドバイザー等による県内指導者資質向上講習会の開催
- ・ 運動部活動における外部指導者の活用を拡大
- ・ ジュニア期から指導できる質の高い指導者の育成・確保

3 競技力向上のための環境づくり

【考え方】

選手の競技力向上を多方面からサポートします。

【具体的な施策】

（１）スポーツ医・科学支援体制の充実

本県のトップアスリートが、国体等の国内外の大会において活躍できる環境づくりの一環として、「福井県スポーツ医科学センター」において、国体選手の身体状況を記録した「選手カルテ」などによる継続的な健康管理、ケガの防止、治療の支援を行うとともに、医学面・科学面からのデータに基づいた適切なトレーニングプログラムを提供します。

- ・ アンケートによるメディカル、心理、栄養に関する調査および健康管理のサポートを実施
- ・ 強化合宿や練習会、大会等にメンタルトレーニングコーチ等のスポーツ医・科学の専門家を派遣
- ・ 競技団体に専属のアスレティックトレーナー等を配置

（２）アスリートに必要な栄養指導の推進

からだづくり、栄養学の面からアスリートを支援するため、強化合宿等へ栄養士等を派遣し、選手と保護者に対し食に関する指導を行います。

（３）女性アスリートのサポート

女性アスリートが試合で最高のパフォーマンスを発揮できるよう、「福井県女性アスリート・ルナコントロールプロジェクト」により、月経管理のための支援を行います。

（４）アンチ・ドーピングに関する啓発

国体でもドーピング検査が導入され、アンチ・ドーピングは選手にとって必要不可欠な知識となっていることから、アンチ・ドーピング研修会の開催等を通じて、十分な啓発に努めます。

- ・ 「チームふくい」強化指定選手等へのアンチ・ドーピング教育を徹底
- ・ 競技団体に専属のスポーツファーマシスト（薬剤師）を配置

（５）強化練習会場の確保

一年を通して国体選手の練習会場を確保するため、県や市町の体育・スポーツ施設および企業が所有するスポーツ施設などを有効活用します。

- ・ 休廃校の体育施設等や民間の遊休施設等を有効活用し、定期的に強化練習ができる会場を確保
- ・ 県・市町立スポーツ施設の国体強化練習での優先利用

第3章 基本施策Ⅱ 1 県民1スポーツの推進

～福井国体・障スポを契機とした地域スポーツの振興～

施策目標

項 目	H30 現状	R6 目標	備考
成人のスポーツ実施率 (週1回以上スポーツを実施)	54.1%	65%	(参考) 福井県スポーツ 推進計画
総合型地域スポーツクラブ 会員数	6,619 人	7,500 人	

1 「する」「みる」「ささえる」スポーツに親しむ環境づくり 【考え方】

福井国体・障スポの成功を契機として、スポーツを楽しむ機会をさらに広げるため、誰もが「する」「みる」「ささえる」ことで参加できるスポーツイベントを開催するとともに、地域のスポーツ活動の拠点となる総合型地域スポーツクラブの質的充実を支援します。

【具体的な施策】

(1) 一年を通してスポーツを楽しむ機会の充実

子どもから高齢者まで、あらゆる人がスポーツに参加できる県民スポーツ祭や、福井国体で実施されたデモンストレーションスポーツの体験フェスタ等の開催など、一年を通してスポーツが楽しめる環境づくりを進めます。

- ・ 県民スポーツ祭の競技種目を、福井国体開催市町で開催
- ・ 県民スポーツ祭の種目に国体やオリンピック・パラリンピック種目を追加
- ・ 冬季も含め年間を通じた開催を推進
- ・ ユニバーサルスポーツ※の実施による高齢者や障がい者のスポーツ参加促進

※ユニバーサルスポーツ：年齢や障がいの有無に関わらず一緒に実践できるスポーツ

(2) 県民交流イベントの開催

福井国体・障スポのレガシーを活かし、子どもから高齢者まで誰もがスポーツや運動を楽しみ、交流を深めることのできるイベントを開催し、県民ど

うしの交流や各種活動の活性化を促します。

- ・ 「はぴりゅうフェスタ」を継続開催
- ・ 「みんなでスポーツフェスタ」を継続開催

(3) 総合型地域スポーツクラブの活動の充実

地域住民のスポーツ参加を促進するため、拠点となる「総合型地域スポーツクラブ」について、官民が連携して、継続的・安定的に運営できる環境整備および活動の充実を図ります。

- ・ 学校施設等の有効活用
- ・ 運動部活動としての弾力的活用の促進
- ・ 適切な指導ができる指導者の養成

(4) オリンピック・パラリンピックに向けた機運醸成

東京 2020 オリンピック・パラリンピックに向け、関連イベント等に協力して機運を盛り上げるとともに、その後のオリンピック・パラリンピックに向けて一層のスポーツ推進を図ります。

- ・ オリンピック聖火リレー等への協力
- ・ オリンピック（候補）選手によるジュニア選手等への指導

2 ライフステージに応じたスポーツ活動の推進

【考え方】

子どもから高齢者まで誰もが、ライフステージに応じて、また世代間の交流を通じて、気軽に自分にあったスポーツを楽しめる環境づくりを進めます。

【具体的な施策】

(1) スポーツ少年団活動の推進

県スポーツ少年団大会や国際交流事業の支援、少年スポーツ指導者の養成、資質向上を促進し、子どもたちのスポーツ活動の充実や健全育成を図ります。

- ・ 県スポーツ少年団大会の開催
- ・ スポーツ少年団指導者等を対象とした研修会の開催
- ・ スタートコーチ（スポーツ少年団）養成講習会の開催
- ・ ドイツ、韓国等のスポーツ少年団との国際交流

(2) レクリエーション・スポーツの普及拡大

子どもから高齢者まで誰もが、生涯を通じて、気軽に楽しくスポーツや運動に取り組めるように、3B体操などのレクリエーション・スポーツを普及する団体のイベントや体験会等の開催を支援し組織の育成を図ります。

- ・ 「みんなでスポーツフェスタ」を継続開催（再掲）

3 スポーツ指導者の育成

【考え方】

地域でスポーツを推進する指導者の育成・確保を図ります。

【具体的な施策】

(1) 多様な指導者の養成

地域において、体力づくり、スポーツ・レクリエーション、各世代に応じたスポーツ指導、部活動指導など、多様なニーズに対応できる指導者を養成し、誰もがスポーツに参加できる環境を整えます。また、公認資格のある競技については、資格取得を促進するとともに、指導者講習会への参加を通して資質向上を図ります。

4 スポーツ交流の推進

【考え方】

全国大会や大規模なスポーツイベントの誘致を進め、スポーツを通じた交流人口の拡大を図ります。

【具体的な施策】

(1) 地域スポーツコミッションによるスポーツツーリズム等の推進

県、市町、スポーツ団体、経済団体等が一体となって、地域スポーツコミッションによるスポーツイベントの誘致やスポーツツーリズム等の推進に取り組み、交流人口の拡大を図ります。

(2) 県内のスポーツ施設を活用し全国規模のスポーツイベント等を誘致

全国規模のスポーツイベントや世界大会、プロリーグ、トップ選手の試合・合宿等の誘致・開催を推進し、県民がスポーツに興味・関心を持てる「みるスポーツ」の機会を充実するとともに、交流と地域のにぎわいを創出しまちづくりにつなげます。また、子どもたちにハイレベルな「本物」の観戦機会を提供することで、スポーツへの夢を育みます。

- ・ 充実した県・市町のスポーツ施設を活用し大規模大会等を誘致
2021 年度全国高等学校総合体育大会（インターハイ）を本県を中心に開催
ワールドマスターズゲームズ 2021 関西の本県での競技開催
日本スポーツマスターズの誘致
- ・ 大学・社会人チームなどの合宿の誘致

(3) 参加型スポーツイベント等の開催を推進

福井の自然を活かした参加型スポーツイベント等の開催を推進し、国内外から多くの人を呼び込み、交流人口拡大とともに福井の魅力発信につなげます。

- ・ フルマラソンの開催を検討

(4) 競技大会とあわせた県民向け大会の開催

中央競技団体が主催する全国競技大会の誘致に合わせ、県民も一緒に参加できる大会を同時開催し、「する」「みる」「ささえる」スポーツに親しむ機会をつくれます。

- ・ 全国大会等の開催に合わせ県大会や体験会を開催

(5) 県内トップチーム・選手を県民一体でサポート・応援

県内のプロチームやトップチームなどが県民に親しまれるチームとなるよう、チームの活動をサポート・応援します。

- ・ 地域を代表するチームとして全国での福井のPRを推進
- ・ スポーツ教室開催や地域活動への参加等を通じた県民の愛着心醸成

(6) スポーツ情報の提供

県民がスポーツに興味・関心を持ち、「する」、「みる」、「ささえる」というそれぞれの場面から積極的にスポーツに参加できるよう、各種スポーツイベント、プロチーム、施設等の情報を、ポータルサイト、SNSなどを活用して提供します。

- ・ 県内のスポーツ情報の収集と発信

第3章 基本施策Ⅲ 健全な組織運営の継続

～本県スポーツの普及振興に永続的に貢献するための組織運営～

施策目標

項 目	R2 現状	R7 目標	備考
女性理事の割合	20.8% (5人)	25%以上 (6人以上)	将来的には 40%を目標※
外部理事の割合	29.2% (7人)	29.2% (7人)	25%以上を 維持※
加盟団体負担金・寄付金収入 等	19,784千円 (R元決算)	20,000千円	

※スポーツ団体ガバナンスコード（中央団体向け）に定める役員の割合

1 組織運営の強化のための人材の登用・育成

【考え方】

福井国体時には、総合優勝を目指して役・職員が一体となり、天皇杯・皇后杯を獲得することができました。この経験を活かし、今後も優秀な役員の登用、事務局職員の育成に努めます。

【具体的な施策】

（１）優秀役員の登用

役員候補者選考委員会を設置し、優秀な役員の登用を図るとともに、女性役員を積極的に登用します。

- ・ 弁護士、税理士等の外部役員の積極的な登用
- ・ 女性理事の積極的な登用を図り、常務理事以上の役職も検討
- ・ 女性の指導者、選手、競技団体役員等によるネットワークの構築

（２）コンプライアンスの強化

倫理規程、倫理に関するガイドライン等を整備するとともに、倫理委員会を常設し、委員には弁護士等の外部委員を委嘱することにより、コンプライアンスの強化を図ります。

（３）事務局職員の育成

内閣府公益認定等委員会が主催する専門の経理業務や法人運営等の研修に職員を参加させるなど、知識の向上に努めます。

２ 財務の健全性の確保

【考え方】

財務・経理の処理を適切に行い、公正な会計原則を遵守するとともに、健全な法人運営を図るため財源の確保に努めます。

【具体的な施策】

（１）外部の専門家のサポート

年間を通して会計事務所のサポートを受け、適切な財務・経理処理を行います。

（２）専門家を監事に選任

外部から財務・経理の専門家を監事に選任し、財務・経理業務を確認します。

（３）財源の確保

加盟団体負担金や寄附金等の収入確保に努め、基本財産及び基本財産以外の財産（資産）について、資産運用規程に基づき適正かつ効率的な運用を図ります。

３ 加盟団体の育成及び連携強化

【考え方】

加盟団体におけるガバナンスの確保を推進するとともに、本会と加盟団体の連携を強化し、本県全体のスポーツ推進に貢献します。

【具体的な施策】

（１）加盟団体におけるガバナンスの確保

加盟団体に関する規程および、倫理に関するガイドラインに基づき、加盟団体におけるガバナンスの確保を推進します。

（２）加盟団体との連携強化

県民スポーツ祭や国民体育大会、競技力向上対策事業、理事長会議等を通じて、本会と加盟団体の連携を強化します。

参考 福井県スポーツ推進計画の基本施策

○本県が目指す姿

1 県民の誰もがスポーツを楽しめる福井

ライフステージに応じ、本県発祥のニュースポーツなどを含めた幅広いスポーツを気軽に楽しめる福井を目指します。

2 運動好きな子どもたちが元気に輝ける福井

全国トップクラスの体力をさらに伸ばし、心も体も健康で、積極的に運動・スポーツに親しむことができる子どもを育む福井を目指します。

3 国内外で活躍できるトップアスリートが育つ福井

福井国体・障スポの成功を機に、県民に夢や希望を与える、国際大会などで活躍する選手を育む福井を目指します。

○施策の基本的方向

本計画では、スポーツ推進のための基本施策を掲げ、それぞれについて実施する具体的な施策を記載しています。

さらに、実効性のある計画とするために、目標年次（令和6年度）までの数値目標を設定し、施策を実施します。

基 本 施 策

I 1 県民1スポーツ

～福井国体・障スポを契機とした地域スポーツの振興～

- 1 「する」「みる」「ささえる」スポーツに親しむ環境づくり
- 2 ライフステージに応じたスポーツ活動の推進
- 3 ユニバーサルスポーツの推進
- 4 スポーツボランティアの活性化
- 5 スポーツ交流の推進

Ⅱ 子どもの体育・スポーツ活動

～学校等での活動を通じた運動やスポーツの多様な楽しみ方の推進～

- 1 学校体育の充実
- 2 地域の協力を得た運動部活動の推進

Ⅲ トップアスリートの養成

～福井国体のレガシーを活かした競技力の維持・向上～

- 1 選手を育成強化する体制づくり
- 2 指導者の育成と確保
- 3 競技力向上のための環境づくり

